

ジョン万次郎上陸

民主主義の始まりの地、糸満市



記念碑が整備された平成 30 年は、明治元年から起算して満 150 年の節目に当たります。



国際人として活躍したジョン万次郎 上陸の地に世界に誇るランドマーク誕生 糸満市大度浜海岸に銅像、イラスト板、園路などを整備



ジョン万次郎上陸之碑建立事業

平成 30 年 2 月、観光振興や人材育成を目的に、ジョン万次郎がアメリカから帰国する時に上陸した大度浜海岸に、足跡を伝える銅像やイラスト板、園路などを整備しました。また、整備に係る財源は、一括交付金を活用しています。

- 事業内容：実施設計、磁気探査、工事
- 総事業費：28,198,800 円
- 整備概要：車止め、誘導サイン、園路、アドベンチャー号マーキング（説明サイン）、記念碑（台座、イラスト板、解説板、銘板、銅像）張芝、植栽

ココがこだわり！ジョン万次郎上陸之碑

指差す方向は、生誕の地・土佐清水市がある方向



左手に持つ 2 冊の本は、「ジョージワシントン伝記」と「ポーディッチ航海術書」



台座の銘板と説明板のタイトルの字体は、明治時代のころの明朝体を再現した「オラダノ明朝体」



アドベンチャー号の説明サインの上にある石は、帰国資金を稼いだ金山があるサクラメントの石



園路の入り口付近には、万次郎の人生を表現したトビウオの石彫オブジェがある



平成 30 年、上陸の地・大度浜海岸に記念碑誕生。

発行 沖縄県糸満市潮崎町 1 丁目 1 番地 糸満市 経済観光部 商工観光課

TEL 098-840-8135 FAX 098-840-8155 WEB <http://www.city.itoman.lg.jp/kankou-navi/index.html>



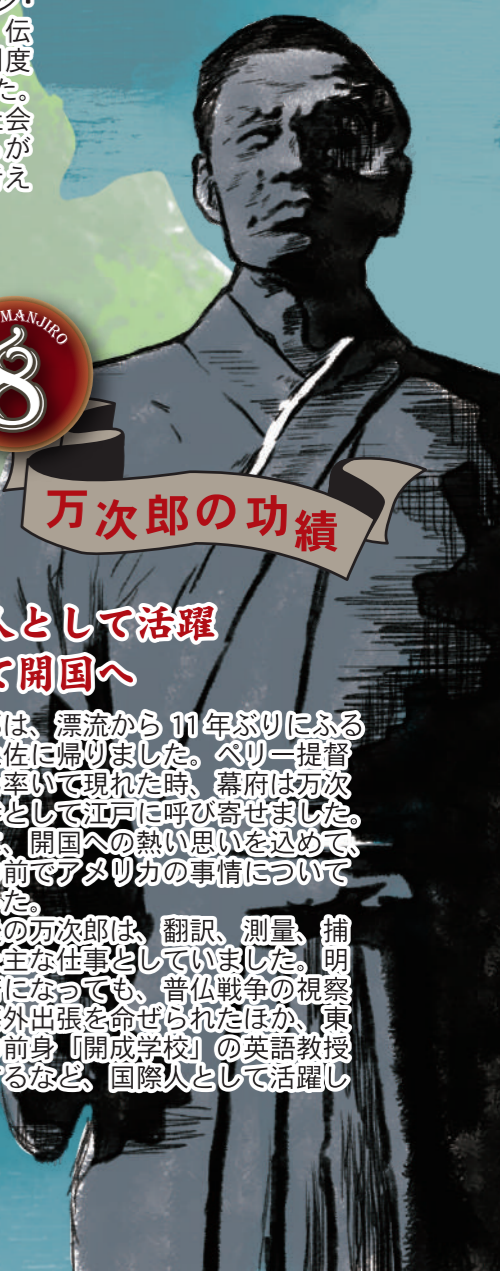
ジョン万次郎の足跡

土佐、アメリカ、琉球、そして日本へ



封建社会の日本に 民主主義を伝える

幽閉されていた万次郎たちは、琉球王府の役人により取り調べを受けました。その時、通事・牧志朝忠は、特にジョージ・ワシントン伝記に興味を持ちました。伝記には、アメリカの民主主義社会の制度や人権尊重について書かれていました。そのようなことから、万次郎が封建社会の日本に持ち帰りたいかったのは、自らが体験した民主主義の思想だったとも考えられています。



万次郎の功績

国際人として活躍 そして開国へ

万次郎は、漂流から11年ぶりにふるさとの土佐に帰りました。ペリー提督が黒船を率いて現れた時、幕府は万次郎を直参として江戸に呼び寄せました。万次郎は、開国への熱い思いを込めて、老中らの前でアメリカの事情について話しました。その後の万次郎は、翻訳、測量、捕鯨などを主な仕事としていました。明治新政府になっても、普仏戦争の視察として海外出張を命ぜられたほか、東京大学の前身「開成学校」の英語教授に就任するなど、国際人として活躍しました。

7



翁長村の高安家へ 「いちやりばちよーでー」に触れる

万次郎たちは、取り調べ後に豊見城間切翁長村の高安家で幽閉されました。半年間に及ぶ捕らわれの身ではありませんでしたが、村の綱引きに参加するなど、村人たちと自由に交流することができました。また、琉球国王からの手厚い保護のほか、豚、魚、泡盛、衣服を贈られるなど、多くの人たちの「いちやりばちよーでー」精神に触れることができました。

6



漁に出て嵐に遭い漂流 無人島生活を経て捕鯨船に救助される

万次郎は、土佐（土佐清水市）で生まれました。1841年、14歳の万次郎と仲間たちが漁に出たところ、嵐に遭い漂流しました。その後、太平洋の孤島に漂着し、143日後、アメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号によって救助されました。ウィリアム・H・ホイットフィールド船長は、万次郎たちを安全なハワイへと連れて行きました。

5



摩文仁番所

摩文仁番所で取り調べ 荷物には本や地図、 ピストルも

万次郎たちの荷物はすべて、摩文仁間切番所の役人によって没収され、番所に運ばれました。荷物には、航海術書、ジョージ・ワシントン伝記、地図、コンパス、ピストルなどがありました。役人たちは、見たことのない品物ばかりでした。また、役人からご飯とお箸を渡され、3人とも上手に使いこなしたことから、日本人であることが認められました。

4



琉球王国・小渡浜に上陸

上陸した小渡浜（大度浜海岸）で万次郎たちは、浜に集まってきた村人たちから、温かいふかしイモなどをごちそうされました。万次郎たちは、親切な村人たちのもてなしに感謝の気持ちで胸がいっぱいになったといいます。また、万次郎たちは、持ってきた牛肉やコーヒーを火に掛け、その場で食してみました。

3

いざ、琉球へ



日本帰国の第一歩 アドベンチャー号でいざ琉球へ

1851年2月2日、北風が吹きみぞれが降る悪天候の中、万次郎たちは糸満市喜屋武岬の沖合でアドベンチャー号を降ろし、陸地を目指しました。深夜、海岸に着くと干潮だったため浜には行けず、仕方なく岩礁にいかりを下し、朝まで一眠りしました。朝になると、近くにいた釣り人の指示に従い、万次郎たちは小渡浜に上陸することができました。

2



アメリカ本土に上陸 日本人初の留学生誕生

1843年、万次郎は1人、アメリカ本土へ上陸しました。ホイットフィールド船長は、万次郎をふるさとのフェアヘブーンに連れ帰り、英語や航海術などの教育を受けさせました。ここに、日本人初の留学生が誕生しました。学校を卒業した万次郎は、捕鯨船フランクリン号に乗って7つの海を航海し、副船長にまでなりました。

日本帰国の決意 金山で600ドル稼ぐ

1850年、カリフォルニアで起こったゴールドラッシュのことを知った万次郎は、日本へ帰国するための資金を得ようと、サクラメントの金山に向かいました。そこで600ドルを稼ぐと、ハワイに戻り捕鯨ボートを購入し、「アドベンチャー号」と名付けました。そして、万次郎、伝蔵、五右衛門の3名は、上海へ向かう商船サラボイド号へ乗船しました。



1

土佐

